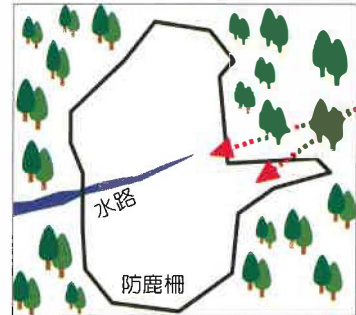


あとの管理を考えた設計

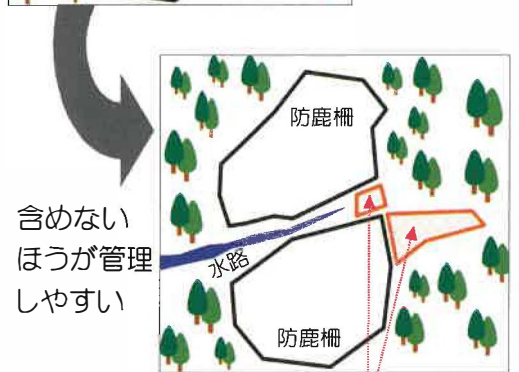
まず最初に、しっかりと設計・設置された防鹿柵であることが重要です。設置後に管理しやすいように、設計の段階から設置の場所や周辺の状況を十分に検討しましょう。また施工の段階でも細かな点に配慮することで、その後の補修の手間を減らすことができます。

管理しやすい防鹿柵とは？

1. ひとつの防鹿柵の総延長は、1日で点検して回れる距離より短くしましょう。
2. 飛び出した部分は柵で囲わないのも一案です。少しの面積を柵で囲っても、総延長が長くなり全体の管理が困難になります(右図)。
3. 谷地形や水路はなるべく避けましょう。近いうちに防鹿柵が大きく破損する可能性があります(右図)。
4. 細かな地形にあわせて支柱を打設しましょう。仕様書などで定められた間隔に従うだけではなく、細かな地形の変化にあわせる必要もあります。
5. 丸太や切り株は除去するか迂回しましょう。防鹿柵の下端を地面にぴったり沿わせることが大切です。
6. 防鹿柵周辺の枯死木は伐倒しましょう。近いうちに倒れて防鹿柵を破壊する可能性があります。



こんな場所を含めるよりも



含めないほうが管理しやすい

除地あるいは単木保護で対応

※地形にあわせた支柱の立て方や出入り口の工夫など、ほかのマニュアルもご参照ください(例えば、参考資料1)。

こまめに補修したほうが安上がり

定期的な補修にあたっては、防鹿柵が大きく壊れてから直すよりも、こまめに直した方が人件費も資材費も安上がりです。経費の大部分を占める人件費をなるべく減らすためには、意外ですが、こまめに点検・補修をして1日で補修が完了するような軽度の破損にとどめながら防鹿柵を維持することが重要です。

防鹿柵を長期間放置した後で大規模に補修したり、食害された苗木を植え替えたりすると、なおさら大きな経費がかかります。

補修にかかるコスト

右ページの実証試験では、防鹿柵を補修後に9ヶ月放置し、その破損を再び直すのに7人日または14人日の経費が必要でした。

~~大きな破損~~ → まとめて補修 → 大きなコスト

例えば、9ヶ月間3ヶ月ごとに2人1組で1日で終わる補修を続けるほうが6人日(2人日×3回)で安上がりといえます。

~~破損~~ → 補修 → ~~破損~~ → 補修 → ~~破損~~ → 補修 → 安上がり